



編集・発行

アカデミア・コンソーシアムふくしま事務局

〒960-1296 福島市金谷川1番地
福島大学 地域連携課内
電 話 024-548-5295
メー ル acf@adb.fukushima-u.ac.jp
URL http://acfukushima.net/



大学間連携共同教育推進事業のご報告

◆ 合同成果報告会のお知らせ

平成25年度に取り組んだ企画のうち、学生さんが計画段階から主体的に関わった企画を中心に、合同の成果報告会を開催します。是非お越しください。

日時：平成25年12月14日(土) 13時00分～

会場：郡山女子大学

詳細は改めて、チラシ等にてご案内をいたします。

◆ 国際交流シンポジウム・大学生によるパネルディスカッションが開催されました

平成25年10月24日(木)、会津大学の開学20周年記念事業の一つである「国際交流シンポジウム」のイベントの一つとして、大学生によるパネルディスカッションを開催いたしました。国際交流スピーチコンテストの流れを汲む今回のパネルディスカッションは、「私が目指すグローバル人材」をテーマに、東日本国際大学、桜の聖母短期大学、日本大学工学部、福島大学、会津大学（報告順）から集ったパネラーが考えを述べることから始まりました。モデレータによる進行に応じ、各パネラーの考えるグローバル人材像についての意見を交わすパネルディスカッションは、1時間半があまりに短い時間に感じられるほど白熱しました。



このパネルディスカッションが終わった後は、朝か

ら変わらぬ鉛色の空模様が気がかりではありましたが、鶴ヶ城に赴いてフィールドトリップ。今回、鶴ヶ城に初めて来たという留学生も多く、日本文化・歴史の一部に触れる新鮮な体験ができたようでした。



◆ リサイクル体験ツアーINいわきをを実施しました

今年の9月に南会津町で実施した「会津高原 森林の楽校2013」。ここでは森に入り間伐をし、そこで生じた間伐材から割り箸が出来上がるまでのプロセスを見学しました。この企画の続きとして、使われた後の間伐材製の割り箸はどうなってしまうのか、ということについての答えを見て学ぶべく、10月19日(土)にいわき市内にある永大小名浜株式会社の工場を見学させていただきました。この企画は、福島工業高等専門学校 of 学生の皆さんがゼロから作り上げ、大学間連携の取組として実現に至ったものです。



この工場では割り箸に限らず、使用済みでリサイクルのできる状態の木片を再生し、パーティクルボードを製造しており、割り箸などの木片が粉碎され、接着剤と共に圧着され、大きさが揃えられるまでの一連の流れを見学しました。参加するまでは「パーティクルボード」という耳慣れぬ板らしきモノがどのようなものなのか想像ができませんでしたが、参加してみて「あっ、家具とかでよく見る板だ」という声も聞かれ、身近なところに間伐材割り箸があるのかもしれない

いという発見があったようでした。

◆ 被災地の現状と先例を考える

～いわき・広野、葛尾、神戸の調査をしました～

東日本大震災と福島第一原子力発電所事故からの復興を考えるために、被災地の現状を見て学ぶことが必要です。そこで、被災地での見学と調査を目的に、3つの企画を実施しました。

まず、今回の調査を本格化させるのに先立って、東日本大震災と福島第一原子力発電所事故による被災状況と現状認識を共有するべく、9月9日(月)に福島大学といわき明星大学の学生がいわき市と広野町の被災地を訪れました。ここでは合同で講義形式によって現状を学んだ上で、地域の方に対するヒアリング調査を実施しました。

その上で、三春町に設けられた葛尾村の仮設住宅におけるヒアリング調査を9月17日(火)～18日(水)に、また大規模震災の被災をした先例として神戸市におけるヒアリング調査を9月24日(火)～26日(水)に実施しました。三春町での調査については、10月11日(金)に葛尾村職員も交えた成果報告が行われました。



◆ 旧山古志村訪問・調査が 報告されました

～ in 桜の聖母短期大学 ～

平成25年10月22日(火)、桜の聖母短期大学において、9月2日(月)～3日(火)に実施した旧山古志村訪問・調査に参加した桜の聖母短期大学の学生が、訪問・調査で学んだことを同短期大学の在學生に報告いたしました。報告では訪問・調査の行程と彼女らを感じたこと・学んだことが発表されました。発表を聞いていた学生たちは、どの顔も真剣。隣県でこんな災害があったのか…と、そして復興の過程を歩んでいる様子を身近に感じていたようです。訪問・調査に参加した6人の学びが全在學生の学びへと、大学間連携共同教育推進事業での学びが広がっていることを実感いたしました。

当事業に参加している学生は一部かも知れませんが、彼らが自分の学校で自ら学んだことを伝えることで、県内全ての学生に学びが波及していくことこそ、当事業の大きな成果であると思いました。



◆ 額の確定調査がありました

平成25年10月4日(金)に大学間連携共同教育推進事業(平成24年事業年度分)の額の確定調査が行われました。いわゆる実地検査であり、支出に関する証拠書類、帳簿書類、物品の管理及び稼働状況の検査が行われました。

事業の進捗に遅れがあること、前回の事業との棲み分けが明確でないことなどの指摘があり、事務処理についても細かな修正を求められました。

今後、文部科学省とのやり取りを経て、平成24事業年度の額が確定することになりますが、今回の指摘事項を、今後の事業実施、及び事業計画策定に生かしていきたいと思えます。

コラム ～ ACふくしまの事務局から ～

◆ 流行モノ

研究員 片倉 育子

研究員の片倉育子と申します。今後ともよろしく願います。

今年もあと1ヵ月あまり、流行語大賞や今年の人気ベスト10など、“今年”を象徴する言葉やものが話題となる季節となりました。私は流行に疎いので、毎年流行語大賞の発表をニュースで見ても、「あっ、聞いたことがある」や「へえ～初めて聞いた」といった具合でした。

ところが、今年は流行語大賞を予想できるくらい流行った言葉を知っているのです。ズバリ「じぇじぇじぇ」。NHK朝の連ドラ「あまちゃん」で使われた驚いたときの言葉です。以前から朝の連ドラを録画して見ている私の生活習慣と流行がたまたま合致しただけだとも言えますが…。そして、先日は東京出張をした叔父がお土産にTBSドラマ「半沢直樹」に因んだ「返し饅頭」を持ってきてくれて、私は「じぇじぇじぇ」と返しました。こんな流行モノに乗った経験も悪くないなあと思いつつ、この先はあんまりないだろうなあと思っていました。